

YASAKA GALLERY

加納典明 ピンクの犬

TENMEI KANOH -PINK DOG-

会場 弥栄画廊銀座店 YASAKA GALLERY GINZA
104-0061東京都中央区銀座7-10-8第五太陽ビル1階
TEL: 03-6263-9707 FAX: 03-6263-9708
info@yasakag.net
協力: SHUMOKU GALLERY

会期 2019年4月12日(金) - 4月25日(木)

時間 11:00 - 18:30 日曜休

弥栄画廊銀座店では、加納典明(1942-)の新作「ピンクの犬」の展覧会を行います。加納は、独特の強さを持った写真で良く知られており、2010年以降は写真家としての活動と並行してペインティングと写真を併用した作品にも挑戦しています。今回は、東京、インド、ニューヨーク、パリ、サンフランシスコ、アラブなど、世界各地で撮影された写真を自ら加工し、ペイントを施した完全新作のキャンヴァス作品を発表いたします。それぞれが撮影された年代も、1960年代から、2010年代まで様々です。加納は自ら足を運び撮りためてきたこれらの写真を、自らのデジタル技術を使い、加工していきます。独特の色彩感覚によって変化させられたこれらの「シリアス・フォト」は、キャンヴァスに印画され、今度はその上からアクリル絵画による手作業で補彩していきます。オリジナルの写真作品が加納自身の手によって、50年の時間を行き来しながらも新しい、これまでにない感覚を持つ作品へと変化していきます。写真家・加納典明の新境地ともいえる作品を、是非ご覧ください。

加納典明 Tenmei KANOH

1942年 名古屋市生まれ

1960年 名古屋市立工芸高等学校卒業

写真家を志し、名古屋市在住の写真家・小川藤一に師事

1962年 写真家・杵島隆の助手として活動開始

1963年 フリーランスの写真家として独立

1969年 New Yorkにて前衛芸術家・草間彌生が主催する、性を題材としたパフォーマンス・イベントを撮影し、性差別や人種差別への問題提起を喚起すべく個展「FUCK」を大日本印刷DICビル画廊にて発表、一躍有名となる。70年代以降は主に広告、雑誌などの撮影を通じて写真家としての地位を確立。現在まで、写真家・アーティストとして様々な分野で活躍している。

「ピンクの犬」に寄せて

有余、写歴58年になる。写真がアナログからデジタルに変遷したが、フィルムにある人間感性がデジタルには無い。第1にデジタルは写り過ぎる薄っぺらな記録でしかない。文明の進化の一結果ではあるが、人間にとって人間を失わないことは当たり前だが、これは何も古典主義とかではなく、人はデジタル写真に関わらず安易、便利、簡単、速い、とかのレベルで実存するべきでは無いのは云うを待たない。しかし日常という非現実な時を、何奴も此奴も送っている。その空しさを人々の有様に垣間見る。先ずは個の独立を持っているかだ。皆んな我を想う気力を持てよ。デカルトが言ったよな「我思う故に我あり」と、詰まりは貴方は貴方なのか、日々挑戦しているか否かが肝要で殆どの人は立場等に囚われ、実存する具体を知らずに時を送っている。今回、写真をデジタル変換して絵創りしながら、なんだかツマンネエナと思いつつ、デジタルしてる時に突然、「ピンクの犬」って降って来た。何故ピンクの犬なのか分からない。脳の記憶パルスが突然おかしな繋がりをしたのだろう。後は辿々しく写真と云う具体を絵画にと向った作品です。既に写真をデジタル変換した時点で一つの世界観と可不足ながら作品となっている、其れになぜ加筆する・・・。写真が出来てからペーコンを始め古今の画家が写真を利している。私は写真に少なからず、自信と勇気と誇りに腕を持っている。作品が写真であるか絵画であるか等々、ジャンルなど気にもしていない。アートに方法論など如何でもよいが、此の時代に生きている以上、写真と絵画の迷宮を彷徨し到達しえない真理など云う人間の愚かに向かってみるのも一興と云うことか・・・。写真に関しても未だ未だ限りなくチャレンジするが、この先、降って来た「ピンクの犬」に、いまま少し未来への創造を試してみるかな。

加納典明

YASAKA GALLERY